

## 復活節第三主日

ヨハネ 21・1-19

2022.5.1

カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

皆さんは、それぞれ洗礼を受けて何年、何十年と信仰生活の歴史をお持ちだと思ふんですけど、信仰の面で、あるいは自分の人間的な成長の面で、停滞しているなど、あるいは、愛せるように全然なっていないなあって感じる時はありませんか？ わたしはずうっとな感じがします。あるいはもっと言えば、ゆるしの秘跡で毎回同じことを、人はそれぞれそんなに変わらないので同じことを言うのはいいとしても、やっぱり同じことを繰り返しているなあって感じるとかね、そういうことはありはしないかなあと思います。でも、そうであっても、わたしたちは日々一所懸命生きているので、何もしてないわけじゃありませんよね。何もしてないわけじゃないんだけど、でもその実りが無いというか、自分が信仰の面でも人間的な面でも進歩していないというようなことはもしかしたらあるかもしれませんね。

それが、今日の弟子たちが夜通し漁をしたが何も採れないという状況の中に見て取って、わたしたちもそういうことに表現されていると見ていいんじゃないかなという気がしています。夜通しただ船の上に座ってたわけじゃないんですよ。一所懸命漁をしても、その甲斐がないというか、結果が伴わない、と。そんな時に、イエス様のアドバイスは「舟の右側に網をおろしなさい」というものでしたね。少しの何かを変えてみる。「右側に網をおろしなさい」と言うことは、きっと左側におろしていたんでしょかね。右と左のどっちが良いとか、そういう話じゃないんだけど、少し変えてみる。イエス様は、「ガリラヤ湖にいても魚は採れないから地中海に行きなさい」とは言わない。あるいは、ガリラヤ湖の中でその場所じゃなくて沖のほうとか、あっちの岩場のほうとか、そっちに行きなさいとも言わない。同じ場所において、でも網をおろす側を変える。「右側に網をおろしなさい」。ちょっと変える、目的をもって。弟子たちにとっては魚を採りたいという明確な目的があるわけですけども、少し変えてみる、あるいは少しの変化を受け入れてみるということが、時として大きな実りへの第一歩であるということを思い出させてくれているような気がしま

す。

確かに同じことを一所懸命続けるってことも大事。「石の上にも三年」っていう言葉もございます。ずうっと同じ信仰生活を、実りがないと思っても、でも続けるっていう中で、いつか暗闇が晴れるというか、今までの歩みが無駄ではなかったということを神様が示してくださるという場合もあるんですよ。

どっちか、変えてみたほうがいいのか、今までの通り続けてみたほうがいいのか、って見極める必要がありますね。その一番大きなポイントは、続けてみるということが惰性になってはいないだろうかと、あるいは、目的を見失って続けることそのものがルーティーン化しているというのかな。ただただ継続しているというようなことかなと思ったら、もしかしたらちょっと何かを変えてみるということが、生活の面でも一つのヒントになるかもしれません。

聞くとところによると、脳もなんかそんなことらしいです。脳は一度習得したものはなるべく変えないように、ずうっと同じことを続けようとするというような傾向を持っているそうです。その方が負担がかからないから。体は自分を守るために負担がかからないものを選択していく、というようなことがあるらしいですね。でも、そのように負担のかからないことを継続していく、繰り返していくっていう脳のパターンにずうっと従っちゃうと、脳のある部分なんでしょうね、従わないっていう決断も脳のどこかでするんでしょうから、従っちゃうと、負担がかからないようにしているもんだから、だんだん機能が衰えて行っちゃうというようなことがあるそうなんですね。

それは、わたしたちの信仰生活も、心と脳と体と繋がってやっているもんですから、信仰生活や周りの人とのつながりっていうのも同じことが言えると思いますね。だから、ちょっと停滞しているなどと思ったら、新しいお祈りを取り入れてみるとか、いつも接している人との声のかけ方を変えてみるとか、ほんとうに小さなことが自分の態度のちょっとした変化になり、そして、やがて信仰生活を通して自分自身が変わられていくっていう大きな変化へと繋がっていく。もちろん一直線ではありませんし、手ごたえって、筋肉を鍛えるようには、心とか信仰の面というのは目に見える変化というのはいないかもしれませんがけれども、でもちょっとの変化を自分の中でしてみるとか、あるいは受け入れてみるということ。今、ちょうど高円寺教会は神父が変わりました。それを、次の、新しいほうがいいのか、そういうことじゃないんですよ、だけど、肯定的な気持ちでその変化を受け入れてみるというチャンスかもしれません、高円寺教会の皆さんにとって。変化なんですよ、それが、「舟の右側に網をおろしてみ

ろ」ってね。

一方で、逆のことも付け加えておかなきゃいけないかもしれませんね。変化をすればいいというもんじゃないんだ、と。あるいは、「ガリラヤ湖じゃなくて地中海に出て行こう」みたいな、いきなり大きなことばかりしようとする、変化そのものが、変化するってことが目的になっちゃうとか、目的を見失うとか、それが大きな労力をかけて何かを変えるということで満足とか、変えることだけが目的になるとか、そういうこともありますよね、往々にして。そしたら、変えてみて、それで満足しちゃう。何の目的かっていうことを見失なっちゃったりしますね。

わたしたちは、いつも大切なのは、特に今日は教会だから、ミサだから、信仰生活、あるいは自分自身のイエス様との、そして周りの人との関わりの中で言うならば、信仰生活の目的、自分が信じて生活している、信仰している、信仰を持っている、カトリック信者であるということの目的をいつも確認しながら、それが惰性になってないかなあ、そして、もしかしたら自分の中で新しいちょっとした変化をイエス様が提案してくれているんじゃないのかなあ、ということ振り返ってみるということも有意義なんじゃないかと思います。

ちょうど今日から5月になって、聖母月ですね。だから、いつもロザリオのお祈りをするのを習慣にされている方は、例えばそのロザリオの意向の中に普段はお祈りしないようなことも入れてみるとか、あるいはその習慣がなかったら、いきなりロザリオっていうとハードルが高いかもしれませんからマリア様の短いお祈りをしてみるとか、そういうことをしながらマリア様と一緒にという気持ちで、自分自身の信仰生活の目的というのは、人生の中でほんの少しでもわたしたちがイエス様に似た者、ということおこがましいけど、でもちょっとした部分でも似た者、イエスのような者になっていくということに尽きますよね。そのために、マリア様と一緒に、マリア様に助けをいただきながら、信仰生活を振り返ってみるということを新たにしてみましょ。そして、わたしたちがご聖体や祝福を通してまたそのつながりを確認するイエス様ご自身の導きに信頼しながら、絶えず神様のほうに向かって歩いて行く者なんだということをおぼろげに忘れることなく信仰生活、そしてそれぞれの人生のいろんな歩み続けることができますように、互いのために祈り合いながらこのごミサを捧げましょ。